

ECHO OHARANO
for Family 展

ECHO OHARANO KYOTO 2022

- 展示期間 -

2022.2.11-2022.2.27

金・土・日限定 12:00-17:00

※他曜日をご希望の場合は事前予約ください。

※最終週のみ月曜まで開催

- 落書きイベント -

2022.2.20(日) 14:00-16:00

※ECHO OHARANO for Family 展に

ご参加の家族をご招待して作家と交流。

火を囲み、家族の落書き大会を予定。

ECHO OHARANO

OHARANO STUDIO GALLERY

- 主催 -

OHARANO STUDIO GALLERY

080-6128-9609 / oharanostudio@gmail.com

www.oharanostudio.com

マイケル ウィッテル Michael Whittle (イギリス - アーティスト)

ベ サンスン Bae Sangsun (韓国 - アーティスト)

マイク ディンスモア Mike Dinsmore (アメリカ - 写真家)

翟 建群 Zhai Jianqun (中国 - アーティスト)

仲上 雅子 Masako Nakagami (日本 - 陶芸家)

春日 貴幸 Takayuki Kasuga (日本 - 植栽師)

吉田 マリモ Marimo Yoshida (日本 - デザイナー)

松崎 陸 Riku Matsuzaki (日本 - 染色家)

- 会場 -

〒610-1153

京都市西京区大原野南春日町 544-26

OHARANO STUDIO GALLERY

ECHO OHARANO KYOTO 2022

絵画、写真、陶芸、植栽、染色など、分野と国籍が異なる8人の国際的な芸術家たちが西山を背景とした大自然広がる京都大原野で、芸術作品を展示します。今回の展覧会は、新型コロナによって生じた不測の混乱を乗り越えつつある世の中に対して、地域という局地的で実体験に根ざした洞察の固有の場から芸術活動の可能性を追求し、世界へ向けて自律的に発信していく展覧会です。

ECHO OHARANO for Family 展

家族の写真一枚から語り始める。普段生活している西京区の町や家、これからも長く付き合う家族の絆を想う。新型コロナウィルスの影響により、多くの人が密集するような市街、美術館などへ行くことが難しくなり、精神面で気持ちが落ち込みがちになるなど大きな影響がありました。しかし一方で、在宅ワークの導入などの変化により、家族と共に過ごす時間が増えました。この活動は、この機会に、アーティストの写真を通じて「家族の絆とは何か？」考えながら心の豊かさを取り戻して、家族全員で新たな思い出を作る芸術活動です。

西京区地域力サポート事業補助金事業

協力写真家 Mike Dinsmore (www.mikedinsmore.com)

協力デザイナー studio rain (www.studio-rain.jp)



マイケル ウィッテル (イギリス - アーティスト)
Michael Whittle

ブラッドフォード大学(英国)で生物化学を研究。大学卒業後、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートの大学院を修了。2012年文部科学省の奨学生制度により、京都市立芸術大学大学院の博士号を取得。作品のモチーフとなっているダイアグラムは、科学では古くから実験や現象のデータを視覚的にわかりやすく表すために用いられる。ダイアグラムの厳格で客観的な科学的美的世界に着目し、アートの文脈でダイアグラムの可能性を拡張すべく制作活動を行っている。自身のアプローチを「空想的客観主義 / ロマンティック・オブジェクティブイズム」と呼び、近年のプロジェクトでは、実在する科学研究や発見、データから着想を得てドローイングなどに落とし込む。

仲上 雅子 (日本 - 陶芸家)
Masako Nakagami

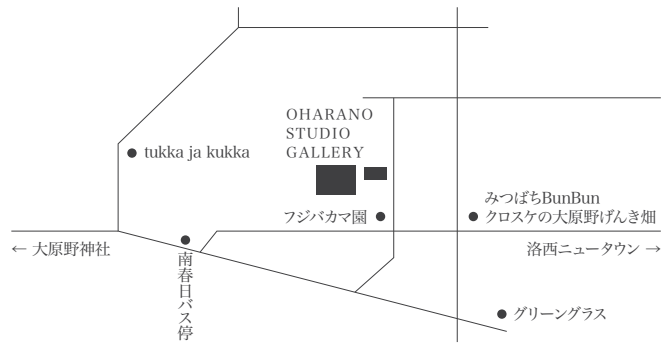
1978年京都に生まれ育ち、小学生で陶芸家を志す。京都市立銅駝美術工芸高等学校 陶芸科で基礎を学ぶ。陶芸の文化が盛んなイギリスに興味を持ち始める。京都造形大学通信学部の陶芸科のアシスタントを経てイギリスへ。ロンドンにて自身の陶器ブランド「miyabi ceramics」を立ち上げるなど4年半のイギリスでの制作生活、スペイン滞在を経て帰国。2010年大原野に開塾、陶芸教室、自身の器を使ったジビエレストラン"nest"設立。陶器、磁器、アイテムのジャンルを超えた作品の数々は、多方面から注目を集める。海外のホテルや企業のコラボ商品、レストラン等の制作を手掛ける。テーマの一つとして陶磁器の照明やうつわの制作を通し安らぎのある空間を作る。

ベ サンスン (韓国 - アーティスト)
Bae Sangsun

2002年武蔵野美術大学造形研究科美術専攻修了。2003年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(版画専攻)交換留学生。2008年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程満期退学。その後は、韓国と日本を行き来しながら京都を拠点に国際的に活動する。これまでの作風について、人体モチーフから始まった木炭によるモノクロームの絵画では、静謐かつ力強い作品を制作する。2005年と2008年にVOCA展「現代美術の展望-新たな平面的作家たち」に選出され、紐や結びをモチーフにしたインスタレーションや陶芸作品を発表する。近年は、日韓の近現代史のリサーチに基づく写真作品や記録資料を収集、リサーチを元にした画像作品を手掛ける。

春日 貴幸 (日本 - 植栽師)
Takayuki Kasuga

2006年オランダ旅行を機に植物に対して興味を持ち始め、独学で植物について学び始める。2011年に東京から京都へ移住して植物業界に転職。2018年に株式会社ランドサット設立。屋内緑化に特化したバルグリュウム技術をベースにアップデートを繰り返して、独自に進化させた全自動植物管理システムを構築する。人間の手により変形され、代償の植生に置き換えられてきた移動能力をもたない植物に対し、「人工環境と自然環境の調和と共存」をテーマに添えて、自然的植生の総合的な景觀の概念と人為的なものが混じり合う対照的な作品を手掛ける。その他、NHK趣味の園芸、Casa BRUTUS、&Premiumなど多数の書籍に制作事例が掲載される。



展示期間

2022.2.11-2022.2.27 金・土・日限定 12:00-17:00

※他曜日をご希望の場合は事前予約ください。

※最終週のみ月曜まで開催

落書きイベント

2022.2.20(日) 14:00-16:00

※ECHO OHARANO for Family 展にご参加の家族を

ご招待して作家と交流。火を囲み、家族の落書き大会を予定。

主催:OHARANO STUDIO GALLERY

会場:〒610-1153 京都市西京区大原野南春日町 544-26

080-6128-9609 / oharanostudio@gmail.com

www.oharanostudio.com

マイク デインスマア (アメリカ - 写真家)
Mike Dinsmore

カルフォルニア出身。カルフォルニア工科大学で芸術とデザインを学び、現在は大阪在住。マイク デインスマアによる最近の作品の被写体は空間である。-その構造、欠如...それは私たちのあるべき姿や、私たち自身でもある。技術の試行や無数のインスピレーションの描写など、私たちの日常に溢れる空間を彼なりに表現するため、彼はデジタルとメッセージを控える事で「かたちの純粹さ」に光をあて、彼は見る者に実在の本質を考えさせる。展示作品「Shapes and Lines:Portraits」シリーズでは、ヌードモデルを対象に有機的な形の不完全さと豊かさ、幾何学的な形の粗いエッジと平坦さとを並置することにより、顕在化した空虚で不明瞭な力を探究する。

吉田 マリモ (日本 - デザイナー)
Marimo Yoshida

1977年生まれ、京丹後市出身。フリーランスのデザイナー兼クリエイター。京都芸術短期大学 専攻科 環境造形講座にて、「環境と人をつなぐ、アートの役割」を学び、在学中から野外展示を中心に活動。卒業制作は、京丹後市大宮町の公園にて、地元の赤土を使ったオブジェ制作を住民参加で行い、20年を経た今でも市民に親しまれている。その他、建仁寺 禅居庵 京都現世美術2006~2009、梅小路公園ランドアート、有馬温泉路地裏アートプロジェクトなど、さわって遊べるオブジェで野外展示に参加。2017年以降は、さいたま赤十字病院へのホスピタルアートや福祉施設にて、参加型のコミッションワークなどを展開する。2020年大原野へ移住し、アトリエを構える。

翟 建群 (中国 - アーティスト)
Zhai Jianqun

1972年中国西安に生まれ。1995年中国西安美術学院油絵専攻卒業。2002年京都市立芸術大学美術専攻科日本画修了。2005年帰国、北京に中心で芸術活動を行う。その後、再び2020年来日、現在京都に在住。この数年間は、「迎える日々」というテーマで作品を制作する。ついに間近で「世界を見る」機会が増え、南米、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、国内各地に赴き、様々な風景と出会う。山、家、ドア、窓、自転車……これらの「風景」は自身の好むもので、そこに「風景」の温度と生き生きとした躍動感を感じ、絵筆を手取る。今回、出品している作品は、この2年間でよくみていた風景です。現在、京都市立芸術大学美術学部日本画特任准教授などを務める。

松崎 陸 (日本 - 染色家)
Riku Matsuzaki

1990年京都に生まれる。22歳の時にNYで藍染に出逢い、帰国後に愛媛県西予市で養蚕から織り、和裁までを一貫して学ぶ。その後、江戸時代から続く染め工房染司よしおかへ入門。染色の技術を磨き、正倉院宝物の復元や新撰組の衣裳復元に携わる。染司よしおか独立後は、京都で一度滅びた京藍を復活させるべく畑900坪を借り京藍の復活に尽力。同時に天然染色ブランドGROMWELLを立ち上げ「土から始まり土へと還る物づくり」をコンセプトに商品を製作する。同年代の銭湯活動家 湊三次郎が経営するサウナの梅湯とのコラボで「湯」小銭入れを製作。ミシュランビブグルマン掲載の麵屋猪一の手拭いを染色。お茶専門店7T+とコラボで京藍茶を製作する。